

バリウム検査を受ける方

下記該当の場合は受けられません！必ずご確認ください。

	疾患名	状態	可・不可
消化器疾患	上部消化管疾患	治療中・経過観察中	×
	炎症性腸疾患	治療中・経過観察中	×
	大腸憩室	憩室炎なければ	○
	消化管手術の既往	術後1年以内	×
	大腸ポリープ内視鏡的切除術	術後3ヶ月以内	×
	胃の手術歴		×
	腸閉塞・腸ねん転の既往		×
	便秘	3日間以上排便のない方、過去にバリウム検査でひどい便秘（医療機関を受診するほど）になった方	×
循環器疾患	虚血性心疾患	1年以内に発作有	×
	心不全、その他心臓病	水分制限あり	×
	心疾患術後	術後1年以内	×
	高血圧	180/110以上	×
呼吸器疾患	喘息	発作時治療中	×
	慢性呼吸器疾患	在宅酸素療法	×
	手術の既往	術後1年以内	×
脳血管障害	脳血管障害	1年以内に発作有	×
	頭部手術の既往	術後1年以内	×
	認知症など	理解困難あれば	×
運動障害	麻痺・疼痛	体位変換困難	×
	手術の既往	術後1年以内	×
	椎体・関節の治療中	体位変換困難	×
	全身衰弱の強い方	自分の力で立つことができない	×
	体型・体形	体位変換困難 体重120kg以上	×
腎疾患 糖尿病	透析中		×
	慢性腎疾患	水分制限あり	×
	糖尿病	当日治療薬を使用した場合	×
その他	妊娠・妊娠の可能性		×
	授乳されている方		※ご相談ください
	アレルギー（バリウム・発泡剤）		×
	誤嚥・誤飲	バリウムの誤嚥歴がある方、誤飲をしやすい方	×
	メニエール病	当日の状態で判断	△
	体調不良		×
	食事	前日21時以降の摂食	×
	飲水	※量・時間によりますのでご相談ください	

疾患名		
消化器疾患	上部消化管疾患	治療中・経過観察中→× 潰瘍、急性胃炎など程度により穿孔や病状の悪化を招く恐れがある為、主治医の許可があっても不可
	炎症性腸疾患	治療中・経過観察中→× 活動期（治療中）は穿孔や病状の悪化を招く恐れがある為、主治医の許可があっても不可
	大腸憩室	憩室炎なければ→○ 腹痛など炎症症状が疑われる場合は検査により穿孔などの重篤な合併症を起こす恐れがある為
	消化管手術の既往	術後1年以内→× 術後1年以内の方は安全を考慮し不可 また、術後の定期受診をされている方は術後1年以上経過していても原則的に不可
	大腸ポリープ内視鏡的切除術	術後3ヶ月以内→×
	胃の手術歴	→胃切除後は不可 部分切除の場合も胃の形態が保てないため不可 ※以前は部分切除の場合検査をしていたが、安全基準の見直し(2019.10)を行い検査不可となった
	便秘	3日間以上排便のない方→× 排泄の遅れにより、バリウムが腸に詰まってしまう可能性がある為
循環器疾患	虚血性心疾患	1年以内に発作あり→× 発作を誘発する可能性がある為 次年度以降は病状が安定し、主治医の許可があれば可能
	心不全	水分制限のある場合→× 水分制限により、バリウムの排泄困難が予想される為
	心疾患術後	術後1年以内→× 開胸手術やカテーテル手術後1年以内の方は安全を考慮して、今年度は不可。次年度以降は病状が安定し、主治医の許可があれば可能
	高血圧	180/110以上→× 日本高血圧学会による重度高血圧であり、合併症を招く恐れがある為

疾患名		
呼吸器疾患	喘息	発作時治療中→× 発作時は誤飲の可能性や、撮影時の息止めが困難となる為
	慢性呼吸器疾患	在宅酸素療法 酸素療法中の方は、検査時の安全を確保できない可能性がある為
	手術の既往	術後1年以内→× 手術により片肺となった方は、誤嚥により重篤な合併症を起こす可能性がある為
脳血管障害	脳血管障害	1年以内に発作あり→× 1年以内に発作のあった方は安全を考慮し不可 次年度以降は病状が安定し、主治医の許可があるようでしたら可能 嚥下障害や体位変換困難ある方は安全を考慮し、時期に関わらず不可 動脈瘤などで運動制限のある方は安全を考慮し不可
	頭部手術の既往	術後1年以内→× 術後1年以内の方は安全を考慮し不可 次年度以降は病状が安定し、主治医の許可があれば可能
	認知症など	理解困難あれば→× 安全を確保出来ない為
運動障害	麻痺・疼痛	体位変換困難→× 安全を確保出来ない為
	手術の既往	術後1年以内→× 術後1年以内の方は安全を考慮し不可 次年度以降は病状が安定しているようであれば可能
	椎体・関節の治療中	体位変換困難→× 安全を確保出来ない為
	全身衰弱の強い方	体位変換困難、自力で立つことができない方→× 安全を確保出来ない為
	体型・体形	体位変換困難→× 安全を確保出来ない為 体重120kg以上 機械の加重制限があり、装置の安全性の問題により不可

疾患名		
腎疾患 糖尿病	透析中	→× 水分制限により、バリウムの排泄困難が予想される為
	慢性腎疾患	水分制限のある場合→× 水分制限により、バリウムの排泄困難が予想される為
	糖尿病	当日治療薬を使用した場合 低血糖状態での検査は安全が確保出来ない為
その他	妊娠・妊娠の可能性	→× 放射線を使用した検査の為、当院では不可
	授乳されている方	→ご相談ください お渡し用の下剤が乳汁中に出てしまうものの為、そちらの下剤が使用できません
	アレルギー（バリウム・発泡剤）	→× アナフィラキシーショックの防止の為 以前にバリウム検査にてアレルギー症状の現れた方（じんましん、呼吸困難、顔面蒼白、手足が冷たくなったなど）は不可
	誤嚥	バリウムの誤嚥歴あり→× バリウムの誤嚥による肺炎など重篤な合併症を考慮し不可
	メニエール病	当日の状態で判断 検査時の回転により症状を誘発する可能性がある為 本人希望強く、検査可能と思われるときは可能
	体調不良	
	食事	前日21時以降の摂食
	飲水	※量・時間によりますのでご相談ください 当日は朝7時までにコップ200mlまでは可 多量の水を飲まれてしまうと胃の粘膜の観察が出来なくなってしまう為